

## 工学系研究科交換留学報告書

工学系研究科建築学専攻修士2年 吉田 聖

留学先	チャルマーズ工科大学（ヨーテポリ、スウェーデン）
留学期間	2018.09~2019.06（修士1年後期~修士2年前期、3年で卒業予定）

### 主なスケジュール

留学準備期	
留学先選定	2018.12（学部4年）
トビタテ奨学金申請	2018.01
TOEFLスコア取得（最終スコア90）	2018.03
工学系研究科交換留学申請	2018.04（修士1年）
留学ビザ申請	2018.06
留学先住居契約	2018.06
航空券予約	2018.06
留学期（秋学期9月~1月）	
現地到着	2018.08.22
オリエンテーション	2018.08.28
秋学期授業開始（全員共通）	2018.09.03
秋学期スタジオ選び	2018.09末
設計スタジオ	2018.10~2019.01
春学期スタジオ選び	2018.12
留学期（春学期2月~6月）	
春学期授業開始	2019.02
設計スタジオ	2019.03~06

### 留学準備 はじめの一步

留学には早めの準備が重要といわれますが、スケジュールからも分かるように、実際に申請などが始まるのは留学の9か月前ぐらいからです。それまでの期間でできることは、留学先の選定と英語の勉強です。また、主な海外留学のための奨学金に関する情報は学生課で教えてくれるので、参考にするとよいかと思います。

### 留学準備 主な手続き

**工学系交換留学**の申請にあたっては留学計画書や研究室の先生の推薦状などが必要になります。計画書や推薦状は英語で作成する必要があるため、英文を書くことに慣れていないと時間がかかります。これらの書類提出後に簡単な面接があります。私はギリギリまでTOEFLのスコアが足りず焦りました。

**トビタテ奨学金**は採用までの期間がかなり長く、採用通知が届いたのは6月でした。選考審査は、1月に提出する書類による一次選考と、5月に行われる面接での二次選考の2回です。一次選考の書類の段階でかなり具体的な留学計画が求められるため、書類作成には余裕をもって取り組むのが良いかと思います。

**留学準備 主な手続き**

**留学のための居住許可**（留学ビザ、residence permit）申請は、スウェーデン移民局のホームページからオンラインで行うことができます。申請書類には留学先大学からの受入許可証や銀行残高証明書（1年間の場合およそ100万円）が含まれており、これらを取得するまでは申請ができません。また、残高が満たない場合は奨学金の受給証明書に記載されている受給予定金額をこれに加えることができます。仮の許可書が届いたら、現地到着後なるべく早くヨーテボリ市内にある移民局へ行き、居住許可カードを発行してもらいます。

**留学準備 家探し**

チャルマーズ工科大学に留学する場合は、大学からのメールを通してSGSという斡旋会社が紹介されます。6月末にSGSのホームページで学生向けアパートメントの情報が解禁されるので、そこで出遅れないように良い物件を探しましょう。私は大学からの近さ重視で、大学からトラムで2駅のMedicinaregatanにあるアパートにしましたが、歩いて15分ほどで通学でき良かったです。

**留学準備 海外保険**

チャルマーズ工科大学では全学生を対象に無償で保険が適用されます。ですが、東大からの交換留学の場合、学生課指定の保険に加入することが求められます。二重で保険に加入していることにはなりますがとりあえず加入しておきました。

### 留学中 秋学期

建築・都市工学専攻への留学の場合、秋学期はじめの1か月は全員共通でSustainable Development and Design Professions という授業を履修します。チャルマーズ工科大学が力を入れているサステイナビリティや環境問題と、それに対するデザインに関する授業で、3週間フルコマです。

**スタジオ**は10程度開講されています。スタジオのコースには設計だけでなく関連する講義やワークショップも含まれているので、スタジオを履修するだけでフルコマ埋まります。私は Residencial Healthcare というスタジオを履修し、3人一組で認知症高齢者の老人ホームの設計を行いました。

チャルマーズでは院の授業はすべて英語で行われるため、すべてのスタジオから選ぶことができますが、留学生はスタジオ選びの優先順位が低いので希望のスタジオを履修できないこともあります。クリスマスから2週間程度、自宅学習と称して休暇があります。

### 留学中 春学期

1月末に秋学期が終わると、続けて春学期が始まります。春学期の授業構成は、はじめに3週間の授業、その後スタジオと並行して文献の授業の3つが主となります。春学期のスタジオは少なく、5つほど開講されています。ですが、私は留学中に行いたいと計画していたインタビュー調査があったためスタジオは履修せず、秋学期のスタジオの先生に指導していただいて修士論文コースを履修しました。そのため、はじめの3週間以外は基本的に大学もしくは自宅で個人作業でした。春学期は4月のはじめに1週間のイースター休暇があります。

### 留学中 授業終了後～帰国まで

6月半ばに大学での授業が終了した後、調査を行ったグループホームの一つでボランティア活動として6月後半から7月後半まで介助ボランティアの仕事をしました。ボランティア終了後は8月10日の帰国まで旅行しながら過ごしました。

### 留学生向けのイベント

チャルマーズ工科大学は留学生も多く、ドイツやフランスといったヨーロッパからが中心ですが中東やインドからの留学生もいます。留学生同士の交流のため、CIRCという学生団体が Phadder group というグループを作って学期初めにキャンパスオリエンテーションなどのイベントを開催しています。事前に大学から送られてくるメールをチェックして参加の申し込みをしておきましょう。

### ヨーテボリについて

ヨーテボリは、スウェーデン第二の都市とはいえそれほど大きな街ではなく、街中も緑が豊かでリスやウサギがいるようなこぢんまりとした暮らしやすい街です。街の中心部はトラムやバスが走っており、街中には電車や地下鉄は走っていません。スウェーデンの首都ストックホルム、ノルウェーの首都オスロ、デンマークの首都コペンハーゲンへはいずれも陸路で3時間半ほど。最寄りの空港はヨーテボリの中心部から30分ほどのところにあるヨーテボリLandvetter空港です。

### ヨーテボリの気候

とても寒いと思われがちな北欧ですが、ヨーテボリは西海岸に位置しているため気候は比較的温暖で、真冬でも-5度前後です。それほど雪も降らず、降っても数センチ積もることが多いです。夏は非常に涼しく、30度に達することはほとんどありません。日本と大きく異なるのは日照時間で、真冬には朝8時を過ぎてから日が昇り、夕方4時頃には暗くなる一方、夏は夜10時ごろまで暗くなりません。暗い冬は課題に追われながら忙しく過ごす方が、かえって気を病まず乗り切れるような気もします。

### ヨーテボリでの生活費

物価が高いといわれる北欧ですが、食材の値段は日本とあまり変わらないので、基本的に自炊をしていれば生活費がそれほど高くなることはないかと思います。ただ、レストランでの食事は高くつきますので外食の頻度には注意が必要かもしれません。駅前のショッピングモールにはSaigon Foodというアジアンスーパーがあり、日本米や醤油などの調味料も買うことができます。コンセントの変換プラグといった電子機器は高い物が多いので、持っていけるものは持っていくと良いでしょう。

### 学生向けアパート

私が滞在していたアパートは家賃50,000円ほどで、水道光熱費やインターネット料金も含まれていました。個室にはシャワーとトイレが一緒になったバスルームが付いており、キッチンとランドリーは共用のものを使用していました。留学先では知り合いもいないので、キッチンで他の学生に会えるぐらいがちょうどよかったです。キッチン用品はキッチンに置いてあるものを共有で使っていたので、自分で持っていった物を使うことはありませんでしたが、アパートによって異なるかと思えます。

### 言語について

大学での授業や手続きのほか、日常会話においてもほぼすべてのスウェーデン人には英語が通じるので基本的に英語ができれば困ることはありません。というより、留学派遣に必要な英語レベルは最低限なので、留学前にできるだけ英語力をつけておけば留学中の勉強も私生活もより楽しく送れるかと思います。スウェーデン語に関しては、必要に迫られる場面は無いので半年間の滞在であれば学ぶ必要はないと思いますが、1年間の滞在であれば一般向けの語学学校などに通っても良いかと思います。私はそんな余裕はないと思って通いませんでしたが、1年も過ごせば多少は自然と身に付くもので、通っていればもう少し話せるようになっていたのではと少し後悔しています。

### 留学後の予定

私は修士1年の秋学期から修士2年の春学期まで留学し、これから1年半かけて就職活動、修士論文作成を行い3年間で卒業する予定です。留学前は調査計画といっても漠然としたものでしたが、留学先で良い先生に指導していただいて無事に調査を行うことができ、今後は、留学中に行った調査に対する考察を深めて論文を作成していきたい、というように留学を通して自らの研究がより明確になっていったように感じています。また、留学中に行った研究や、留学という経験そのものを自分の強みとして卒業後の仕事も選んでいこうと考えています。